



特定非営利活動法人 Chance For All

2024 年度 年次報告書

生まれ育った家庭や環境に関わらず、
だれもがしあわせに生きていける社会へ



Annual
Report
2024-2025



2024 年度活動のお礼とごあいさつ

平素より CFA の活動に温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

2024 年度は、私たちにこれまで挑戦が確かな形となり、社会を動かす実践へとつながった一年でした。長年、CFA が大切にしてきた「こどもが放課後に自由に過ごしながら育っていく場を地域の中に広げたい」という思いが、東京都の認証学童制度という形で制度化され、広がりがつあります。これにより、学校の空き教室に数百人のこどもが詰め込まれた「預かる」学童から、こどもたちが安心して自分らしく過ごせる「育ちの場」へと大きく舵を切ることができました。さらに、民間の学童保育が補助の対象となることで、多くの家庭が学校外の多様な居場所を選べる可能性が広がり、今後、費用負担も軽減されていく見込みです。私たちの現場での試行錯誤や保護者の声が、こうして制度に反映され、これまでの当たり前を多くのみなさんと一緒に少しずつ変えていけることをとても嬉しく思っています。

また、墨田区で運営する《あそび大学》の取り組みが、キッズデザイン賞で内閣総理大臣賞という大きな評価をいただいたことも、2024 年度の大きな成果でした。これは単なる賞ではなく、こどもが主体となって自由にあそぶということの大切さが社会に認められた大きな契機となると考えています。

もちろん、こどもを取り巻く環境はまだ多くの課題を抱えています。不登校やいじめ、止まらない少子化高齢化や AI 時代でどうやってしあわせに生きていくかなど、どれも簡単に解決できるものではなく、答えもわかっていない問題がほとんどです。だからこそ私たちはこれからも現場で実験し、挑戦し、必要な仕組みを社会に提案し続けていきます。たくさん失敗し、たくさんご迷惑をおかけすることもあるかと思いますがその分、生まれ育った家庭や環境に関わらず、誰もがしあわせに生きていける社会の実現に向けていつも全力で前を向いて進んでいきたいと考えています。

今後も引き続き、みなさんと一緒にによりよい未来をつくっていただけることを心から楽しみにしています。

特定非営利活動法人 Chance For All
代表理事 中山勇魚



● Chance For All 組織図



● 2024 年度ハイライト

CFAKids

コロナ禍を乗り越え、親子 BBQ や地域のお祭りなど新たなイベントも再開。校舎の外にも活動を広げました。CFAKids では学年に応じた役割や制度(アドバンス)を設けており、アドバンス生のみができる自由外出や、キャンプ委員や運営委員などの委員活動を通じて、こどもたちが主体的に動き、自立共生を目指してきました。

駄菓子屋 irodori

2021 年にオープンした駄菓子屋 irodori は、地域のこどもたちが自分の意思で来ることのできる第三の居場所としてスタートしました。2024 年度は店舗の引っ越しが決定。リニューアル準備期間中も活動を継続させるため、CFAKids 亀田校での開催や出張販売を実施してこどもたちに継続した居場所の提供を行いました。2025 年 3 月には、新拠点でのリニューアルオープンをしました。

パークリーダー

2023 年 11 月にスタートしたパークリーダー事業では、こどもたちが自由に安全に遊べる公園を目指して足立区内で活動しています。2024 年度から活動頻度をあげて週 3 回、活動場所も昨年度より増やし、足立区内 3 つの公園での活動を行っています。地域の方から励ましのお声がけをいただくことも少しずつ増えてきており、地域で活動が認識されていると感じています。今後は地域の方とのつながりをより強めていきたいと考えています。

あそび大学

墨田区の町工場から素材を提供していただき、それらを自由に使ってあそべるあそび場を他団体と協働で実施しています。2024 年度は「第 18 回キッズデザイン賞 最優秀賞(内閣総理大臣賞)」を受賞、墨田区のブランド認証事業『すみだモダン 2024』において「すみだモダンブルーパートナー」に認定されました。

感情図書館 hidamari

本を感情で分類し、全国のこどもたちに本を読むきっかけを届けることを目指した感情図書館 hidamari では、学生メンバーが選書を行っています。毎週選書のためのミーティングを行い、どの感情に分類される絵本かを協議しながら選書を進めています。そうした活動の積み重ねにより、事業開始から約半年で選書数 100 冊を突破しました。また、イベントの開催や読み聞かせ活動も行いました。

J-CST

認定 NPO 法人かものはしプロジェクト、認定 NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえ、一般社団法人移動式あそび場全国ネットワークと協働し、J-CST(災害時緊急こども支援チーム“Japan Children Support Team”)を立ち上げ、2024 年度は被災地である能登であそび場づくりの緊急支援も行いました。移動式あそび場「プレイカー」を使って全国のこどもたちに遊びを届けられるよう、全国に仲間を増やしていく予定です。



特集

Japan Children
Support
Team

J-CST

新規事業
J-CSTについて

J-CST（Japan Children Support Team）の立ち上げ

近年、こどもたちのあそび場の減少や子育ての孤立、地域のつながりの希薄化が深刻な課題となっています。さらに、災害時にはこどもが安心して過ごせる場所が失われることも大きな問題です。

そこで、CFAでは認定NPO法人かものほしプロジェクト、認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ、一般社団法人移動式あそび場全国ネットワークと協働し、J-CST（災害時緊急こども支援チーム“Japan Children Support Team”）を立ち上げました。

J-CSTは、全国に「移動式あそび場」を展開し、こどもたちが自由に遊び、つながることができる環境を展開します。そして災害時には「こどもの心を守る居場所」として機能する仕組みを構築することを目指しています。



能登におけるあそび場の展開

2024年4月から、CFAの職員が能登へ滞在しあそび場を展開しています。

7月からはプレイカーを導入し、さらには学生ボランティアスタッフも能登に常駐するようになったことで、より広い地域に遊びを届けることができるようになりました。

9月に発生した豪雨災害では、再びこどもたちの居場所や遊べる場所が土砂災害等の被害に見舞われました。その際も、プレイカーにより各地を回り、こどもたちが心を癒し、安心して過ごせる場所を提供しました。

震災から1年以上が経過し多くの団体が震災支援から撤退していく中でもCFAは2名体制で常駐し、定期的なあそび場の開催を実現できました。地域の方からも「あそびのプロって必要ですね」「こどもたちには、全力で遊ぶことが何よりの心のケアになると思います」といった声が寄せられるなど遊びの大切さが少しずつ広がっています。

パートナー団体との連携

J-CSTでは移動式あそび場を全国で展開するため、2025年3月11日から3月31日にかけて、「パートナー団体」の募集を行いました。全国で活動しているこども支援団体のなかで、移動式あそび場と一緒に展開していただける団体とパートナーシップを結びます。

2025年度の1年間パートナーシップを結び、研修会の実施などを通して移動式あそび場に関する知識の共有や情報交換を行うことで、各団体がプレイカーの活動を継続して行えるよう支援していきます。2025年度は6団体へ資金的支援、1団体へ車両の提供を行い、計7団体とパートナーシップを結び、新たに7台のプレイカーが誕生しました。（2025年5月時点）J-CSTのネットワークは今後全国的にどんどん拡大していき、日本中に遊びを届けていく予定です！



J-CSTメンバーインタビュー

- Q1** 所属団体について教えてください **Q2** 所属団体の活動をとおして、どんな社会を実現したいですか？
Q3 J-CSTとの関わりについて教えてください **Q4** J-CSTを通して実現したいことはなんですか？



五井 利明さん

- A1** 認定NPO法人かものほしプロジェクト
A2 葛藤や傷つきはなくなっても、ケア・修復があふれる世界。こどもたちに「この社会はいいところだよ」と言って手渡せる社会。

A3

はじめは勇魚さんと飲みながら「やろうよ!」と巻き込まれました(そういう人たくさんいる気がする)。最初はプロジェクトへの伴走支援的に、会議のファシリテーションやスタッフの成長支援を主にやっていましたが、事業が育っていく中で徐々に役割をシフトしていき、2025年1月からは事務局長(仮)になり、暫定的にマネジメントを担っています。今後の役割はまた変わっていきそうで、模索中です！

A4

プレイカーの全国普及(目指せ500台!)を通して、外あそびによってこどもの尊厳が大切にされ、力を引き出すことができる環境が増えていくこと。また、あそびに関わる大人がたくさん増えること。

星野 諭さん
(かーびー)

- A1** 一般社団法人移動式あそび場全国ネットワーク
A2 こどもたちがまちのどこでも自由に遊び、自然に人とつながれる「あそびあふれる社会」の実現。こどもの誰もが安心して過ごせる地域を実現したいです。

A3

移動式あそび場の担い手育成研修や、実践的なノウハウの提供を通じてJ-CSTに関わっています。各地域の課題や資源に応じた持続可能なモデルづくりを支援し、災害時には被災地におけるあそび場の経験や工夫を共有しています。こどもの権利としての遊びを守る視点から、地域と連携しながら活動しています。

A4

全国に遊びを支える人材のネットワークを広げ、地域で持続可能な遊びの取り組みが根づくよう支援したいと考えています。



國定 奈央子さん

- A1** NPO法人Chance For All
A2 すべてのこどもたちが第3の居場所に手が届く社会を作りたいです。学校・家庭以外にいつでもアクセスできる居場所がある、「ここなら安心できる」と感じられる場所がたくさんある社会を作りたいです。

A3

J-CSTの事務局スタッフとして入職しました。事業全体の計画からパートナー団体のみなさんとの連絡の窓口まで幅広くいろいろな業務にかかわっています。これからどんどん大きくなっていくJ-CSTの輪の縁の下の方力持ちとして事業を支えていきたいと思います！

A4

あそびの大切さが世の中に浸透すること。こどもたちが安心してのびのびとあそべる場が日本中に広がっていくこと。それを支援する大人の輪が広がっていくこと。



山本 亮さん

- A1** 一般社団法人のと復耕ラボ
A2 Satoyama Styleの実現。もともと人と自然が共生し、循環型の暮らしが成り立っていた里山。その文化や魅力を掘り起こし、未来にアップデートしていくことで、こどもから大人までより豊かに、持続可能に暮らせる地域社会をつくる。

A3

能登半島地震並びに奥能登豪雨災害の2つの被災を受ける中、J-CSTのメンバーのChance for allと連携して地域のこどもたちの居場所・あそび場づくりを行っています。具体的には当団体が運営しているボランティア滞在拠点で、奥能登全体にプレイカーを届ける基地になっています。また、同施設をあそび場で使ったり、連携してイベントを開催したり、地域の人とのつなぎ役になったり、一緒にこどもたちのための森のあそび場をつくる活動等を行っています。

A4

私自身、こどもを持つ被災者の一人として、J-CSTの取り組みによってこどもたちが被災した中でも楽しく過ごせ、様々な経験をできていることが本当にありがたくおもっています。こどもたちが暮らしやすい地域に必要なものへの問い合わせやそれをつくるための協働ができる存在として頼りにしています。

数字で振り返る

CFAの1年



CFAKids

▼ こどもたちが
話し合いをした時間



8490分

CFAKidsではよりよい校舎になるためにどうしたらよいか考える「運営委員」やキャンプを盛り上げる「キャンプ委員」などこどもたち自身が話し合い、CFAKidsを作っていく活動を行っています。

hidamari

▼ 感情分類の数



42種類

「友達とけんかしたとき」「さみしいとき」などこどもの感情をもとに本を分類しています。その区分をもとに、2024年度は220冊を選書しました。

あそび大学

▼ 参加した
ボランティアの人数



516人

あそび大学は様々な団体からのボランティアのみなさんで運営されています。2024年度は延べ516人のボランティアのみなさんが参加してくださいました。



組織全体のこと

▼ 職員数



21人

▼ 学生チームの人数



172人

CFAでは職員とともに、170人を超える学生チームのメンバーが活動しています。2024年6月には職員、学生チームが合同で合宿を行い、CFAの未来について語り合いました。



irodori

▼ 販売した駄菓子の数



22,877個

リニューアル準備期間中も出張販売を行い、たくさんのこどもたちに駄菓子と居場所を届けました。

パークリーダー

▼ 活動した時間

111日



天候によっては実施できない日もある中で、100日以上の実施を実施し、3000人以上のこどもたちと遊びました！

J-CST

▼ 能登滞在日数

380日

(更新中!)



▼ 能登のあそび場に参加したこどもの数

3400人



※2025年8月1日現在

震災後の支援としてスタートした能登でのあそび場事業。CFAの職員が常駐し能登地方の様々な地域で遊びを届けています。定期的にあそび場を開催し、2024年度は3400人のこどもたちが参加しました。

2024 年度決算報告

(単位:円)

科目	金額
1. 受取寄附金	
受取寄附金	8,776,021
2. 受取助成金等	
受取民間助成金	15,923,378
3. その他収益	
売上高	357,314
売上戻り高	-545
保育料収入	124,717,115
受取助成金	10,471,000
経常収益計	160,244,283
1. 事業費	
(1) 人件費	
給料手当	65,939,031
法定福利費	22,518,582
人件費計	88,457,613
(2) その他経費	
その他経費計	63,848,386
事業費計	152,305,999
経常費用計	152,305,999
当期経常増減額	7,938,284
税引前当期正味財産増減額	7,938,284
法人税、住民税及び事業税	0
当期正味財産増減額	7,938,284
前期繰越正味財産額	-11,961,880
次期繰越正味財産額	-4,023,596

2025 年度から スタートして挑戦

● 学生チームメンバーの能登での挑戦

今年度から、能登のあそび場活動に新たに大学生メンバー2人が加わりました。2人は大学を1年間休学し、能登に住み込みで活動に取り組んでいます。プレイカーで奥能登地域を駆け回り、多くのこどもたちにあそびを届けるとともに、今年度は輪島市三井町で新たに「森のあそび場」事業をスタートさせました。地域の方々と協力しながら、この地に長く残るあそび場を作ろうと、日々奮闘しています。引き続きSNSやHPで能登の活動についてお知らせしていきますので、楽しみにしてください！



● 駄菓子屋irodori リニューアルオープン

駄菓子屋irodoriがリニューアルして、新たなスタートを切りました。足立区関原の子育て応援商店街沿いに新たな店舗を構え、地域のこどもたちが自分の意思であそびに来ることができる居場所として、CFAの学生チームのメンバーが運営しています。さらに、「学生チーム主催」で商店街の公園にて「せきばらこども夏まつり」を開催し、多くのこどもたちが集まり、笑顔あふれる時間を過ごしました。今後も地域の皆さまと共に、こどもたちの成長を見守り、安心して過ごせる居場所づくりを続けていきます。



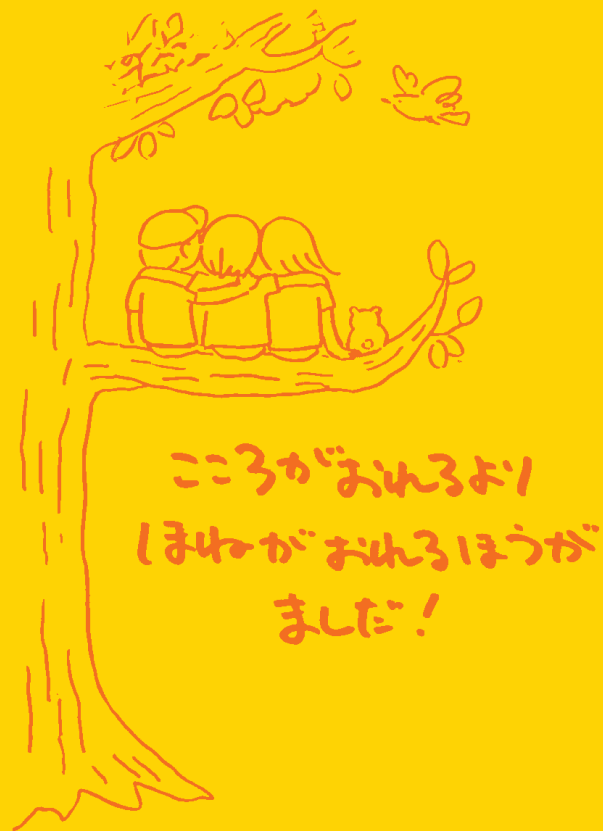
寄付の ご案内

CFAKidsでは、経済的に困難な家庭のこどもたちが保育料、イベント代、食事代など全て無料で通える仕組み「CFA奨学制度」を実施しています。また、CFAの事業全体へのご寄付も受け付けています。あなたに合った方法で、ぜひご参加ください。

CFAの事業全体に寄付する
(好きな金額で寄付いただけます)

CFA奨学制度に寄付する
(マンスリーサポーター)





24年度助成・寄付および協力いただいた方々



社会福祉法人中央共同募金会、こども家庭庁、公益信託あだちまちづくりトラスト、
足立区、東京都福祉保健財団、ILBS 国際婦人福祉協会



特定非営利活動法人 Chance For All

〒123-0852 東京都足立区関原3-15-4
mail: info@chance-for-all.org
HP: chance-for-all.org

この年次報告書のデザインは、インクデザイン株式会社様にご担当いただきました。
今年度もステキなデザインを、ありがとうございました。

公式HP & SNS



HP



X



Instagram



Facebook